

登録コード	HS610100	開講年度	2026				
授業題目	建築保全再生学特論					担当教員	土本 俊和 他
英文授業名	Advanced Lectures on Conservation of Historic Buildings					副担当	寺内 美紀子・梅干野 成央・羽藤 広輔・佐倉 弘祐
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	博士課程学生
				授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					(授業の達成目標)	
	2026HS加, 2025HS加, 2024HS加, 2023HS加						
	【専攻】理工学系分野における課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力						
(2)詳細 /Detailed information	本授業は、建造物群という理解のもとで、都市と建築の双方を視野におさめながら、その保全と再生に関する知見を獲得していくことをねらっている。保全再生について、理論的な側面と実務的な側面の双方に理解を深めていく。まず、理論的な側面は、日本と西洋の双方について、関連する文献を通読し、ICOMOSなどにおける国際的な議論などを概観する。この際、西洋の文献に関しては、英語のほか外国語の素養が求められるので、事前に外国語の習得が求められる。つぎに、実務的な側面であるが、都市ならびに建築の調査研究から、保全再生にむけての実施設計・施工を具体的な事例にそくして議論していく。日本の事例のほか、東アジアでは韓国と中国など、中央ヨーロッパではドイツ、スイス、オーストリア、イタリア、フランスをとりあげる。建造物の野外博物館や世界文化遺産に関して、具体的な事例にそくして理論とともに実態が把握できるよう、個別事例についての調査をおこなっていく。						
(3)授業の概要 /Overview of course	まず、理論的な側面として、日本語ほか英語などによる参考文献を提示する。その概略にふれることにより、要点を把握する。そして、参考文献の通読により、理論的な内容の全体を、歴史的な過程をふまえた地球規模で俯瞰する。具体的には、世界文化遺産の地球規模的な分布を通して、全体を把握していく。この作業のために、多くの図書の通読が求められる。実務的な側面に関しては、具体的な都市ならびに建築にふれていく。近隣に遺存している事例として、国宝、重要文化財、重要伝統的建造物群保存地区、登録文化財、文化的景観などを把握するとともに、海外の事例を複数とりあげていく。これは、「授業のねらい」で記したように、東アジアと中央ヨーロッパをとりあげる。						
(4)授業計画 /Course plan	講義 : 保全再生に関する参考文献の紹介 実習 : 保全再生に関する参考文献一覧の作成 ディベート : 参考文献に関する討論 (理論の生成に関する歴史的な背景) ディベート : 参考文献に関する討論 (理論に対応する具体例の枚挙) 実習 : 保全再生を地球規模で俯瞰したレポート作成 講義 : 保全再生に関する具体例の紹介 実習 : 保全再生に関する具体例の実地調査 ディベート : 保全再生の現場で生じている諸問題に関する討論 ディベート : これからの保存再生に関する新しい提案 実習 : 保全再生に関する具体例のポスター作成						
(5)成績評価の方法 /Grading/evaluation method	授業評価は以下の二点から成る。 1、理論的な側面に関して、重要参考文献については、数点の文献について、その内容が把握されているかを評価する。評価方法は、実習 のレポートで、比率が50%である。 2、実務的な側面に関しては、保存再生に関する具体的なポスター作成で評価する。評価方法はレポート で、比率が50%である。						
(6)成績評価の基準 /Grading/evaluation criteria	授業評価は以下の二点から成る。 1、理論的な側面に関して、重要参考文献については、数点の文献について、評価方法は、実習 のレポートで、比率が50%である。 2、実務的な側面に関しては、評価方法はレポート で、比率が50%である。						
(7)事前事後学習の内容/Prep and review work	事前事後の学習としての内容は以下の2点です。 ・作業日誌を記す。 ・参考文献リストを作成し、更新していく。						
(8)履修上の注意 /Notes	まず、幅広い関心をもっている必要がある。地球規模でのいとなみを偏向なく捕捉するために、幅広い関心が求められる。これを裏打ちするのが語学力である。外国語に身近に触れる習慣をつけてほしい。また、具体的な内容に精通するため、都市と建築の双方をモノとして見る観点を養ってほしい。						
(9)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	適宜、個別に受け付けます。以下のメールが受付窓口です。 tsuch01@shinsu-u.ac.jp						
(10)授業の形式 /Course format	討論を含む双方向形式						
【教科書 /Textbook(s)】	指定しない						
【参考書 /Reference work(s)】	ユッカ・ヨキレット著、秋枝ユミ イザベル訳『建築遺産の保存 その歴史と現在』アルヒーフ、2005年 土本俊和『中近世都市携帯史論』中央公論美術出版、2003年 土本俊和『棟持柱祖形論』中央公論美術出版、2011年						